

第11節 案内・解説施設に関する計画

第 8 節で示した動線計画に従い、来訪者を円滑に誘導し、理解増進を効果的に図るために、既存の案内および解説施設の維持・管理・修繕・更新を行うとともに、必要に応じて新たに設置する。なお、総合的かつ統一的なサイン整備を行うため、別途サイン整備計画を作成する。

1 案内・解説施設整備の共通事項

- (1) 見学者が理解しやすい看板表示を行う。
(街道指定地の始点・終点がわかるように) (番屋など説明板がないものは説明板の新設)
- (2) ユニバーサルデザインの分かりやすいサイン整備を行っていく。
- (3) 点字や多言語表記など人に優しい説明看板の設置を行う。
- (4) 車のスピード抑制のための看板を設置する。
- (5) 伝統的なデザインをモチーフとした新規デザインを検討し、これまで設置した施設についても順次取りかえ、デザインの統一を図る。
- (6) 改修や新設に当っては、地下の遺構を保護して施工を行う。
- (7) 遺跡の説明システム導入の検討 (人感センサーによる音声ガイド、スマートフォンを活用した観光アプリなど遺跡の説明システムの導入を検討)

2 ゾーン別整備計画

(1) 史跡指定地ゾーン

説明板の新設や既存看板の改修

- ① 番屋など説明板がないものは説明板を新設し、理解の増進を図る。また、歴史的建造物に合わせた照明設備を設置し、人感センサーによる照明や音声ガイダンス設備を整備する。
- ② 既存看板については、今後とも現在地において適切な維持・管理を行い、劣化・き損等が生じた場合には適切な補修を行う。
- ③ 並木敷跡に説明板を設置するとともに、善太夫嶋堤 (せぎ跡) の使用方法の図示など見学者が理解しやすい表示を行う。
- ④ 点字や多言語表記など人に優しい説明看板の設置を行う。



川越街道の西側標識



札場の標識



川会所の説明板



島田大堤の説明板

(2) 保護対象範囲ゾーン

説明板の新設や既存看板の改修

島田市博物館分館の川越しに関する役割や位置付け、来訪者へのアプローチの仕方について再検討し、ユニバーサルデザインを取り入れたわかりやすいサイン整備を行う。

(3) 史跡周辺ゾーン

①説明板の新設や既存看板の改修

(ア) 周辺の史跡巡りのため、誘導サインを整備するとともに、それぞれの概要等を示す。

(イ) 石碑・^{ほこら}祠など説明板がないものは、所有者や地域住民の理解と協力を得ながら、説明板の新設を検討するとともに、既存看板については、今後とも適切な維持・管理を行い、劣化・き損等が生じた場合には適切な補修を行う。

②案内標示板等の設置

(ア) 指定地の東側入口（指定地の明確化）や県道島田岡部線（大井川橋）と県道河原・大井川港線の交差点におけるサイン整備を行う。

(イ) 公共交通機関の拠点および主要交差点から川越遺跡までを誘導する案内標示板等の設置を検討する。

③新東海製紙の壁に、大名行列などの絵をペインティング検討

街道の東に交差点から約 300m、新東海製紙株式会社の壁が続く。新東海製紙株式会社や地元の協力を得ながら、その壁に大名行列などの絵をペインティングすることを検討する。

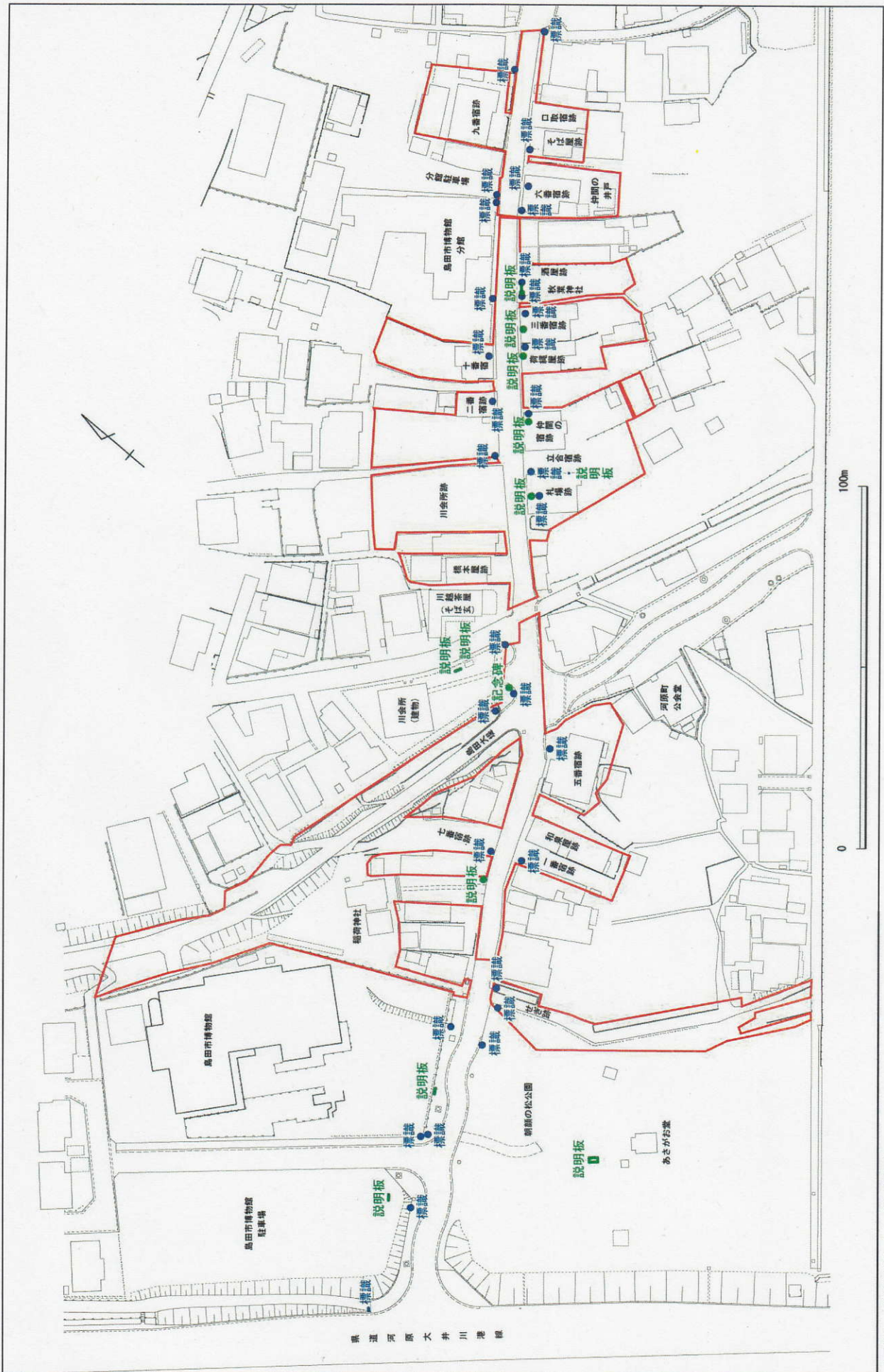


図36 既存サイン位置図

第12節 地域全体における関連文化財等との有機的な整備活用に関する計画

川越遺跡を拠点に、これらを活用するため連携すべき資源を結ぶネットワークを形成し、相乗効果を高める。なお、「島田宿大井川川越遺跡整備基本構想」では、次のような 2 つのネットワーク整備について記載している。

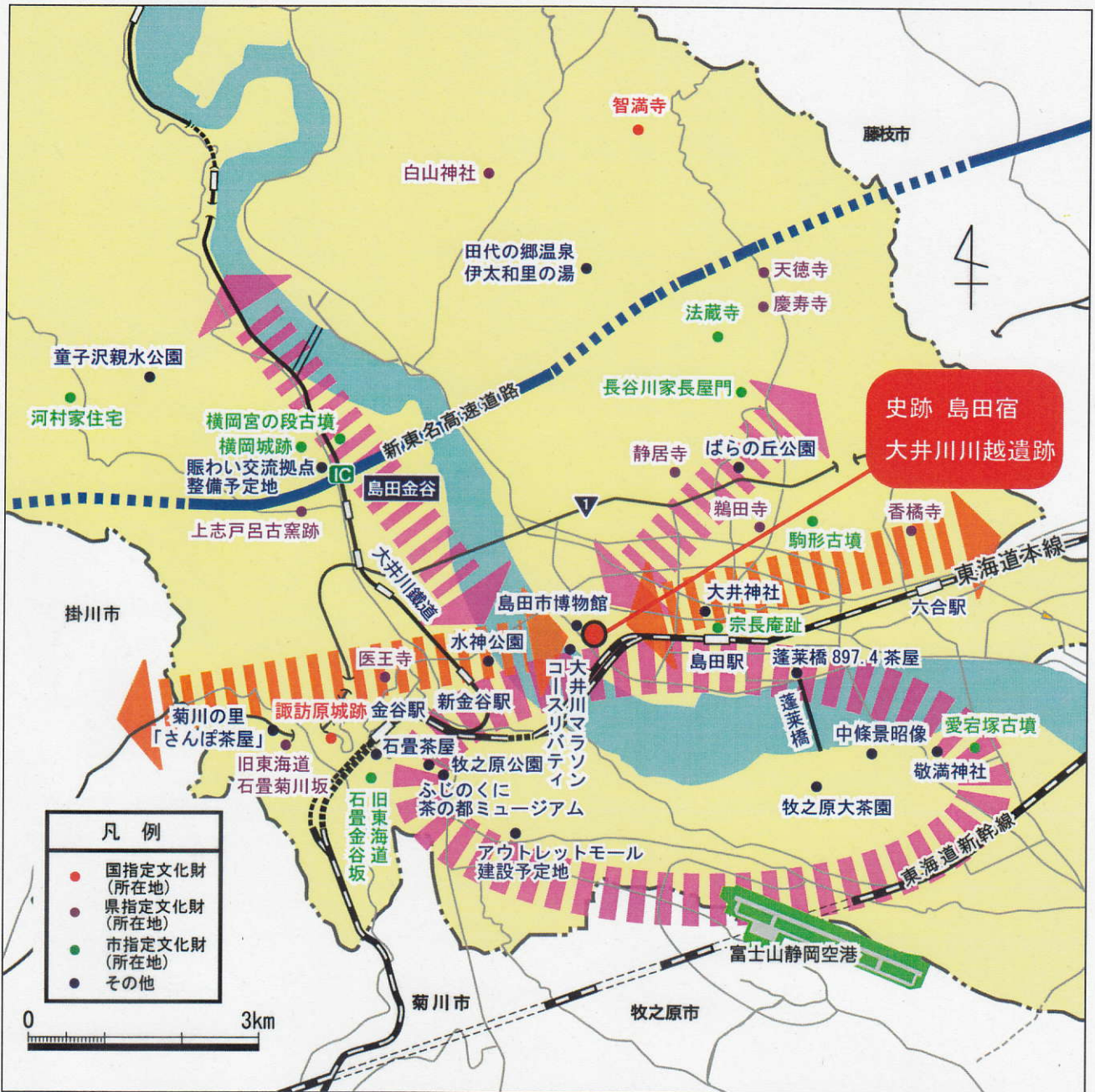



図37 ネットワーク図

- 1 東海道に沿って渡渉制度を体感するネットワーク：
 島田宿本陣跡～川越遺跡、島田市博物館本館～（大井川）～金谷宿本陣跡等を辿る。

(1) 主要な資源

- 国指定文化財：諏訪原城跡
- 県指定文化財：旧東海道石畳（菊川坂）、医王寺（薬師堂）
- 市指定文化財：宗長庵跡、旧東海道と石畳（金谷坂）

- その他：大井神社、水神公園、石畳茶屋、菊川の里「さんぼ茶屋」など

(2) 整備充実の方針

島田宿と金谷宿を結ぶルートの充実を図り、川越遺跡と一体として連携を目指す。また、藤枝市や掛川市など周辺地域の東海道関連の文化財ネットワークについても連携を図っていく。

川越遺跡から大井川を渡って市指定旧東海道と石畳（金谷坂）、県指定東海道菊川坂石畳を経て小夜の中山へ至る街道は平成 8 年に文化庁が選定した「歴史の道百選」にもなっており、国史跡諏訪原城跡からは世界遺産富士山の美しい眺望が広がる。これらの東海道沿いの観光資源とのネットワーク化により付加価値を高めていく。

さらに案内サイン表示（説明板・標識）、歩道や自転車道、レンタサイクルシステムの整備、SNS 映えするスポットづくりの支援などを行うことにより、多くの来訪者の利用を促し、川越遺跡を拠点として、東海道沿いをネットワーク化し、交通の便や案内サインの充実を図る。

具体案の例

- ・案内サイン表示（説明板・標識）、歩道や自転車道、レンタサイクルシステムの整備、SNS 映えするスポットづくりの支援
- ・島田市内の歴史文化資源など説明システム導入の検討（スマートフォンを活用した観光アプリなど）

(3) コースの例【徒歩による散策】

JR 島田駅からのウォーキングコース（東海道の名残を辿る旧跡探訪）

- ・距離：約 7.0km、所要時間：半日

①JR 島田駅→(約 0.6km)→②島田宿本陣跡→(約 0.5km)→③大井神社→(約 0.5km)→④大善寺→(約 1.5km)→⑤川越遺跡→(約 0.1km)→⑥島田市博物館→⑦大井川橋経由(約 2.0km)→⑧水神公園→(約 1.3km)→⑨金谷宿本陣跡→(約 0.5km)→⑩JR 金谷駅



図 38 JR 島田駅からのウォーキングコース図

2 地域の多彩な文化・観光資源を巡り体感するネットワーク：

蓬萊橋～川越遺跡、島田市博物館本館～ばらの丘公園～ふじのくに茶の都ミュージアム～大井

川鉄道等を巡る。

(1) 主要な資源

- 国指定文化財：諏訪原城跡、智満寺（本堂・十本スギ）
- 県指定文化財：上志戸呂古窯跡、天徳寺（山門）、静居寺（惣門）
- 市指定文化財：長谷川家長屋門、愛宕塚古墳
- その他：蓬莱橋、島田市ばらの丘公園、ふじのくに茶の都ミュージアム、牧之原大茶園、中條景昭像、敬満神社、牧之原公園、田代の郷温泉伊太和里の湯、大井川鐵道など

(2) 整備充実の方針

川越遺跡周辺には、国指定文化財の諏訪原城跡などの文化資源や世界一長い木の橋として知られる蓬莱橋やSLで有名な大井川鐵道、ふじのくに茶の都ミュージアム、温泉など、数多くの観光資源がある。

JR 東海道線や東名高速道路および新東名高速道路 IC、富士山静岡空港といった交通インフラの要衝で、新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺地区は、内陸フロンティア推進区域もあり、旧金谷中学校跡地ではアウトレット建設が予定されている。

川越遺跡は、これら多彩な文化・観光資源の中心に位置することから、観光の軸として、教育の拠点として、歴史文化・観光資源を辿る。

とりわけ、蓬莱橋は、川越遺跡に車で約 5 分と近く、年間 10 万人以上の来訪者があり、大井川で繋がっており、蓬莱橋の来訪者を川越遺跡に呼び込む具体的な方法を検討していく。

具体案の例

- ・蓬莱橋と島田市博物館の共通入場券(セット券)
- ・レンタサイクルシステムの整備
蓬莱橋から川越遺跡の間は大井川の河川敷にあるマラソンコースの利用も考えられる。なお、島田駅北口駐輪場にて 1 日 500 円でレンタサイクルを行っている。
- ・観光バスとばらの丘公園やふじのくに茶の都ミュージアム、島田市博物館も合わせた共通のチケットなどについても検討
- ・川越遺跡（島田市博物館）と蓬莱橋やばらの丘公園など市内観光地をめぐる周遊バスの運行なども検討
- ・案内サイン表示（説明板・標識）、歩道や自転車道の整備、SNS 映えするスポットづくりの支援
- ・島田市内の歴史文化資源など説明システム導入の検討（スマホを活用した観光アプリなど）

(3) コースの例【自家用車・観光タクシー・バス利用者向け】

①新東名高速島田金谷 IC からの文化・観光地巡り

・距離：約 30km、所要時間：1 日

①新東名高速島田金谷 IC→(約 7km)→②川越遺跡と③島田市博物館→(約 3km)→④蓬莱橋→(約 4km)→⑤島田市ばらの丘公園→(約 5km)→⑥田代の郷温泉伊太和里の湯→(約 11km)→⑦新東名高速島田金谷 IC



図 39 新東名高速島田金谷 IC からの文化・観光地巡りコース図

②富士山静岡空港からの文化・観光地巡り

・距離：約 28km、所要時間：1 日

- ①富士山静岡空港→(約 11km)→②蓬萊橋→(約 3km)→③川越遺跡と④島田市博物館→(約 3km)→⑤大井川鉄道乗車→(約 4km)→⑥ふじのくに茶の都ミュージアム→(約 1km)→⑦アウトレットモール建設予定地→(約 6km)→⑧富士山静岡空港



図 40 富士山静岡空港からの文化・観光地巡りコース図

第 13 節 便益施設および管理施設に関する計画

イベントの開催時や今後の観光客の増加に対応した駐車場やトイレ等を整備し、利便性を高める。前節で示した動線計画に基づき、見学者に円滑で快適に遺跡を見てもらうためには見学者が利用する便益施設の整備も欠かせない。

1 駐車場・駐輪場

自家用車・観光バス等での来場者駐車場は博物館本館駐車場（普通車 59 台・バス 3 台）を案内する。ただし博物館分館利用の方で、足の不自由な方や高齢者等には、分館東側駐車場（普通車 18 台）を案内する。また、イベントの開催等による自動車での来場者が多く見込まれる際には、事前に国土交通省静岡河川事務所島田出張所の許可を得て河川敷臨時駐車場（174 台）を確保する。

なお、博物館分館には駐輪場のスペースがないため、景観に配慮した形での整備を行う。

2 トイレ

現在、遺跡見学者は川越茶屋の観光用トイレのほか、博物館本館および分館内のトイレを利用している。このほか周辺には朝顔の松公園および大井川河川敷にトイレが設置されている。新たに設置しない。

表 14 トイレの設備数

	設備数
川越茶屋	男性小便器 1、女性用 1、障害者用 1
博物館本館	男性小便器 3、大便器 2、女性用 3、障害者用 1
博物館分館	男性小便器 3、大便器 2、女性用 3、障害者用 1
朝顔の松公園	男性小便器 1、男女兼用大便所 1
大井川河川敷	男女兼用大便器 2

3 休憩施設・設備

遺跡内には御休み処として川越茶屋が設置され、そば屋として営業しており、川会所の移築復元後の跡地については道路を挟んで広場として一体的な休憩施設としての利活用を計画している。なお、遺跡内の番宿については、元々川越人足が休憩する溜り場であったため、見学者の休憩所としての利活用も図る。現在番宿等には、縁台を設置し見学者の休憩用として利用されており、デザイン等に十分配慮のうえ、数量・配置場所の見直しを行う。

4 管理施設

遺跡の維持管理については、博物館本館および分館職員が行っており、現在、ほうきや塵取りといった室内清掃用具は番宿等の押入れに入れて保管している。この他屋外で使用する維持管理のための道具類等については博物館の施設管理と兼用で使用しているものもあり、引き続き博物館本館・分館を管理施設として使用していく。